

やさしい病害虫講座
ミカン類の病害虫—2

木村 裕

【アゲハチョウ】

成虫は黄白色の地に黒い縞模様をあしらったおなじみのアゲハチョウで、いろいろな花を訪れています。



幼虫はミカン類の若葉を食べて育ちます。卵からふ化した小さな幼虫はチョコレート色で中央に白い帯模様があり、鶏の糞のように見えます。この頃はいたって小食で被害も目立ちませんが、3回皮を脱いで緑色のイモムシになると俄然張り切って葉をボリボリむさぼり食べます。また、ミカンの仲間であるサンショは好物であつという間に丸坊主にします。



白い帯模様の中にある黒い1対の目玉はよく目立ちますが、これは本当の目玉ではありません。この目玉模様があるのは胸の部分で、本当の目玉は体の先端部にあります。

【ミカンハモグリガ】

漢字で書くと、蜜柑葉潜蛾という小さな蛾です。幼虫は平たいイモムシで、ミカン類の葉に潜って過ごします。

卵からふ化した幼虫は直ちに葉の中に潜り、トンネルを掘るように薄い葉の組織内を食い進みます。そのため、表面から見ると葉にはうねうねと曲がったトンネル工事の跡が白い筋となって残ります。



成虫の蛾はその年に開いたばかりの柔らかい葉や若枝を選んで産卵するため、侵入を受けた葉は縮れたり、ねじれ曲がったりします。若木では成育に影響を受けますが、成木では無視してもよいでしょう。

【そうか病】

若い枝や葉にイボ状の突起や、ざらついたかさぶたがあらわれます。さらに、果実の表面にイボ状の突起や褐色のかさぶたがあらわれて変形します。樹全部の果実が変形することもあり、発生すると被害は甚大です。若木での発生が主で、春の新芽の伸び始める頃にしとしと降り続く長雨は発生を助長します。

